

がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成

文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」採択事業

東京大学・横浜市立大学・東邦大学・自治医科大学

4大学合同セミナー

～医療過疎地におけるがん診療の現状と課題～

日時：平成27年2月5日（木）18：30～

場所：自治医科大学 記念棟9階会議室

講師：小松憲一先生（自治医科大学地域医療学センター）

がん対策基本法制定後、専門性の高い高度ながん診療の均霑化が目指されてきた。しかし医療過疎地におけるその効果や、がん診療の実態は明らかでない。そのため、我が国の医療過疎地におけるがん診療の現状を捉え課題を明らかにし解決策を見出すために全国調査を実施した。調査のため、へき地に関する特別措置法指定地域内にある200床未満の811公的医療機関を対象としてその地域における検診、がん治療、緩和ケア、訪問診療、看取りや連携、現状認識、医療過疎地でのがん診療のあり方等12項目からなる質問紙を送付、回収・解析した。調査の結果、480施設（回収率59%。病院58%、診療所62%）より回答を得た。診療所はほとんどが医師一人、専門資格を有する看護師は緩和ケアにごく少数、常勤薬剤師はほぼ0人であり、がん診療に特化した状況はなかった。限られた資源の中で最大限の医療提供を目指すも都市部との格差は仕方ないと認識されていた。役割として、病院は緩和ケア・がん治療、診療所では緩和ケア・在宅ケアとしていた。取り扱うがん種として前立腺癌が目立った。課題としては人手や時間不足、不十分な連携、患者の意識等を、地域がん診療向上のKey pointとして高次医療機関との連携、医師・看護師への教育、住民の理解等を挙げる施設が多かった。調査からは、がん拠点病院の指定要項にも含まれる地域医療機関への関与が課題として浮き彫りになった。地域の個別事情に応じた住民と一体となった包括的診療の提供体制構築が望まれる。

Free

がん医療にご興味のある方のご参加をお待ちしております。

■問い合わせ先

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
自治医科大学 学事課 大学院係
0285-58-7477
cancer@jichi.ac.jp